

環境報告書 2019

株木建設株式会社



株木建設環境報告書

1. ご挨拶	1
2. 株木建設株式会社 行動憲章	1
3. 品質・環境方針	2
4. 事業の概要	2
・ 売上高・受注高の推移 ・ 2018 年度 完成工事(事業別、官・民別)比率	
5. 環境目的・目標	3
6. 環境マネジメントシステムの状況	3
・ ISO14001 認証取得状況 ・ 外部審査 ・ 内部環境監査 ・ 環境マネジメント組織と運用体制	
7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み	4
・ 環境パトロールの実施状況 ・ 工事検討会実施状況 ・ 施工体験発表大会	
8. コミュニケーション・社会貢献活動	5
・ 様々な取組み事例	
9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス	6
・ 電力使用量、コピー用紙購入量 ・ CO2削減活動実施率、事務用品グリーン調達率 ・ 廃棄物排出量、リサイクル率	
10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み	7
11. 当社グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み例	8
・ バイオガス化処理システム	
12. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動	9
13. 環境報告書作成・発行	10

1. ご挨拶

「令和」の新しい時代へと移った昨年は、関東地方では観測史上1位となる暴風の台風 15 号の上陸や、日本各地に甚大な浸水被害をもたらした 19 号などがありました。当社施工中の現場も河川氾濫により、大きな被害が発生しました。

当社は、そうした幾多の自然災害の復興、復旧に向けた協力・支援に全力で傾注しています。

世界各地で巨大な台風や集中豪雨、森林火災など、大きな自然災害が多発しているのは、地球温暖化による気候変動によりもたらされているものであり、人類が持続的な成長を維持していく上で、そうした環境問題への真剣な取り組みが必要となります。

当社は社会貢献活動を始めとし、環境関連法規制の順守、環境負荷の低減、環境の保全に努めています。

具体的には、施工品質を高め、手直し・手戻りを防ぐことによる建設資材のムダの抑制、振動・騒音・粉塵など建設公害の防止、CO₂ の排出削減などの「環境負荷の低減」を各作業所の環境目標に掲げ、全員一丸となって取り組んでいます。

また、社会の信頼を得て、より持続的な成長を維持してゆくため、前社長が提唱した「TPS(トヨタ生産方式)」を建設業にアレンジし、独自の工夫を加えた「KCS(カブキ・コンストラクション・システム) 改善活動」を構築、推進しています。

これは、生産性向上と品質確保を追求する「TPS(トヨタ生産方式)」を建設工事に応用しようとする試みです。

活動を効果的に進めるため「見える化」手法を取り入れ、環境負荷低減を促進し、より高い品質の施工を目指し、社員一人一人が自主的に知恵を絞って工夫を加え、改善活動を継続的に実施していく取り組みであり、物づくりと自然を調和させ、かけがえのない良好な地球環境を次世代に受け渡していく一助となると確信しています。これからも、未来に向け「循環型社会構築」を目指し、地域社会の環境保全に貢献し、『環境の環』を広げ、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと考えています。



2020年4月

代表取締役社長 株 木 康 吉

2. 株木建設株式会社 行動憲章

- I 建設にかかわる広範なニーズ、技術開発、良質で安全な企画・設計・施工で対応して顧客満足を得、そして社会資本整備に貢献する。
- II 公正、透明、自由な競争を行う。また、政治、行政、発注機関、取引先等とは健全かつ公正な関係を保つ。
- III 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- IV 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、環境の改善と向上にむけ自主的、積極的に行動する。
- V 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- VI 社員の人格、個性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりを行う。
- VII 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、不当、不法な要求は一切拒否する。
- VIII 確固たるコーポレートガバナンスのもと健全、堅実な経営を行う。
- IX 役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識しつつ率先垂範の上、関係者に周知徹底する。
- X 本憲章に反するような事態が発生したときには、役員自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また関係者の権限と責任を明確化し、自らを含めて厳正な処分を行う。

2005 年 12 月制定

3. 品質・環境方針

【品質方針】

卓越した技術と施工により、お客様の要求・期待に応える確かな品質の構築物を提供し、厚い信頼と満足を得る。

1. 迅速で適切な顧客対応を行う。
2. 技術、能力の向上に励む。
3. 経営の質を改善し、顧客満足の向上を目指す。

【環境方針】

環境に配慮した「良い製品」造りと活動を通じて、地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動する。

1. 設計・施工・オフィスの各活動を通じて、環境負荷を低減する。
2. 事業活動による環境汚染の予防に努める。
3. 実行可能なことから環境保全に取り組む。

【コミットメント】

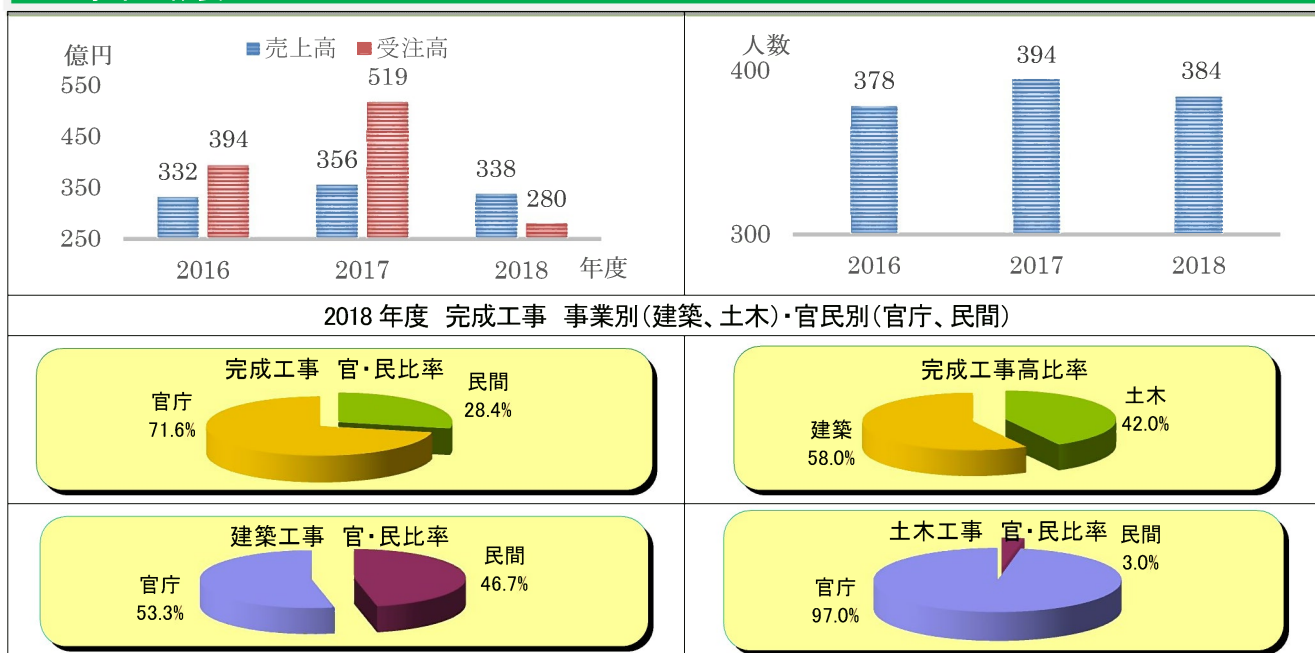
1. 品質・環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。
2. 顧客要求事項、関連する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

以上、方針達成のために、活動の目的・目標を定め、計画を作成し展開します。「品質・環境方針」は、当社及び社会の要請や変化に対応して、適切となる様、適宜見直し、内部コミュニケーションなどの機会を通じて全従業員に周知するとともに、社外へ公開します。

2019 年 10 月制定

社名	株木建設株式会社	本 店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0688
沿革	創業 1921 年 4 月	東京本社	171-8560	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4111
資本金	27 億円	茨城本店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0222
従業員	人数 384 名 (2019.5.31 現在)	東京本店	171-8561	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4120
建設業許可	大臣許可(特-28)第 3 号	札幌支店	060-0033	北海道札幌市中央区北一条東 1-4-1	011-221-5084
業態	総合建設業	名古屋支店	460-0008	愛知県名古屋市中区栄 4-7-10	052-249-5685
主な事業内容	土木・建築ならびに関連業務	大阪支店	531-0072	大阪府大阪市北区豊崎 5-8-17	06-6372-5951
事業年度	5 月決算	九州支店	812-0016	福岡県福岡市博多区博多駅南 4-2-10	092-414-1555

4. 事業の概要



5. 環境目的・目標

2018 年度 全社環境目的・目標・実績					
区分	方針(目的)	目標	実績	評価	
施工	環境に配慮した「良い製品」造りと活動を通じて、地球環境の保全と地球環境への貢献を目指して活動する	地区工事検討会における環境管理目的に対する指導事項を目標展開する	地区工事検討会管理目的指導事項を目標展開 土木事業本部:24 作業所に 対し実施 達成率 100% 建築事業本部:12 作業所に 対し実施 達成率 100%	○	
設計	省エネ設計・技法の充実を図り、顧客提案力を向上する	省エネ設計、製品の不具合情報、新たな有効情報を収集し 省エネ情報ファイルの整理を行う	空調・給排水・電気・照明・遮熱・断熱・緑化に対する最新の省エネ情報収集	○	
オフィス	事務用品のグリーン調達率を向上する オフィス周辺の環境美化を推進する	事務用品のグリーン調達率 92.5%、環境美化の推進 (ゴミ削減) 4S:整理・整頓・清潔・清掃)95%以上	グリーン調達率 95.1% 環境美化率 97.1%	○	
区分	目標	手段・運用手順	目標値	実績	評価
土木事業本部(営業部)	環境工事への受注の推進	入札及び見積参加が可能な物件を整理し、積極的な参加を本・支店に指導する	受注 10 件以上	11 件受注	○
建築事業本部(営業部)	リニューアル・コンバージョン工事の受注に向けた営業を展開する	・既存建物の再利用提案 ・耐震補強、建替え工事の設計事務所とのコラボレーション	設備機器改修によるリニューアル工事の受注	2 物件営業展開中	○
	省エネ提案リストを活用した優良顧客への営業を展開する	設計部と連携・協同し、省エネ提案、技術提案力を活かし受注獲得を目指す	省エネ提案を含めたプレゼンの実施	1 物件営業展開中	

6. 環境マネジメントシステムの状況

【ISO14001 認証取得状況】 環境マネジメントシステムを全社一括で、2005 年 10 月に認証取得し、2019 年 9 月に第 5 回再認証審査を実施しました。											
審査登録機関	MSA										
認証取得日	2005/10/20										
更新日	2019/10/29										
有効期限	2022/11/23										
登録番号	MSA-ES-476										
【外部審査】 2019 年 9 月に審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターによる第 5 回再認証審査を受審しました。 審査結果は、是正要求はなく、改善の機会 4 件となりました。											
<table><tr><th>項目</th><th>2018 年度</th></tr><tr><td>改善指摘</td><td>0 件</td></tr><tr><td>改善の機会</td><td>4 件</td></tr><tr><td>観察事項</td><td>0 件</td></tr><tr><td>充実点</td><td>0 件</td></tr></table>		項目	2018 年度	改善指摘	0 件	改善の機会	4 件	観察事項	0 件	充実点	0 件
項目	2018 年度										
改善指摘	0 件										
改善の機会	4 件										
観察事項	0 件										
充実点	0 件										
【内部環境監査】 環境マネジメントシステムの運用状況を把握し、継続的改善をはかるため、常設部署及び作業所の内部環境監査を実施しています。 2018 年度は、常設部署の定期監査を 1 回実施(20 部署)し、作業所は 15 作業所に対し実施し、指摘事項はありませんでした。											

環境マネジメント組織と運用体制

```
graph TD
   社長[社長] --- 管理責任者[管理責任者]
   社長 --- 安全品質環境管理室[安全品質環境管理室]
   管理責任者 --- 建築事業本部[建築事業本部]
   管理責任者 --- 土木事業本部[土木事業本部]
   建築事業本部 --- 建築部[建築部]
   建築事業本部 --- 設計部[設計部]
   建築事業本部 --- 営業部[営業部]
   土木事業本部 --- 土木部[土木部]
   土木事業本部 --- 営業部[営業部]
   土木事業本部 --- 管理本部[管理本部]
   管理本部 --- 総務部[総務部]
   管理本部 --- 経理部[経理部]
   社長 --- 本支店[本・支店]
```


7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み

地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動することとした環境方針を受け、工事施工を進める上で、法的及びその他の要求事項等を順守して施工を行っているが安全衛生環境パトロールの実施や一定規模以上の工事に対して、その工事特性・周辺の環境に配慮した環境汚染予防・環境保全活動に対する事前工事検討会の実施、更に環境に配慮した創意工夫、活用技術事例の施工体験発表大会を開催し、技術・経験の共有化を図るなど環境汚染予防・環境保全活動の様々な取組みを行っています。

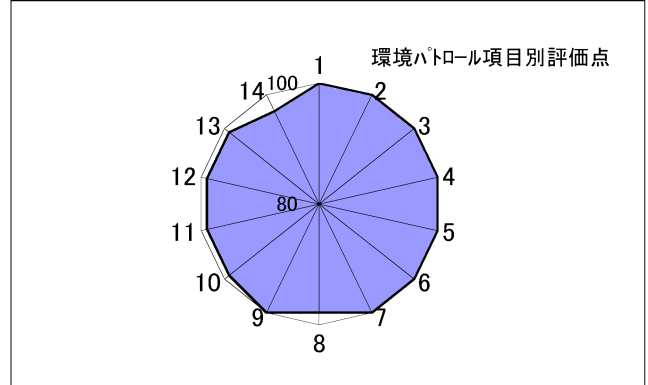
【環境パトロールの実施状況】

工事施工部署は、法的及びその他の要求事項等を順守し社会的責任を果たすため、各作業所に対して安全衛生環境パトロールを実施し改善を図っています。

作業所は、工事開始前に、法的及びその他の要求事項を間違いなく順守するよう計画し、チェックを実施しながら活動しています。

2018年度は、チェック結果及び事象から評価して、法的及びその他の要求事項を順守していると判断しています。（点検項目）

1.緊急事態の対応準備	6.路面維持・、排水状態	11.大気汚染、騒音・振動
2.環境一般	7.埋設物・空中線管理	12.土壌・地下水汚染
3.環境側面	8.建設・副産物管理	13.地盤沈下
4.法規制順守	9.近隣の苦情、要望事項	14.有機・化学物質の SDS 情報に基づいた取扱い
5.交通対策の措置	10.飛散、粉塵	



2018 年度実施回数	法遵守結果
125 回	指摘 15 件／総点検 1250=1.2%

【工事検討会実施状況】

現業本部では、一定規模以上（土木 3 億、建築 5 億）の工事や特異性のある工事について、その工事特性に応じた適切な施工が出来る様、社長をはじめ同種工事の経験者や設計・技術部門の担当者等を交えて、工事検討会を実施し、環境の他、施工、品質、安全衛生とあらゆる角度から知恵を出しあい、予防処置を検討し改善をはかっています。

本社工事検討会実施対象でない工事については、各拠点（地区）にて同様に検討会を実施しています。

◆本社工事検討会実施回数◆					
工事区分	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
建築工事	9 件	9 件	12 件	10 件	5 件
土木工事	11 件	11 件	13 件	8 件	10 件
合 計	20 件	20 件	25 件	18 件	15 件



【施工体験発表大会】

当社では、2年に一度、完成工事の中から優れた施工で成績の優秀であった工事を選定し、施工体験発表大会を開催しています。

これは、全社員が現場で活用された技術や経験を共有化すると共に、各人のプレゼンテーション能力向上を目指しているものです。

令和元年度施工体験発表大会では、それぞれの異なる施工において活用した技術、創意工夫、環境配慮の事例等に関する体験情報が、参加者全員に伝えられました。



・令和元年度施工体験発表大会 (2019.11.16)

8. コミュニケーション・社会貢献活動

【様々な取組事例】

【現場の取組み】

建設工事の円滑な施工には地域社会の理解と協力が必要です。株木建設は地域とのコミュニケーションの重要性を深く認識し、地域社会への情報発信を積極的に行うことによって、お互いの理解を深めることができていると考えています。

市民マラソン大会への協賛や現場見学会、様々なイベント等を企画し、地域・地元との交流を通じて、コミュニケーションの推進や地域貢献に努めています。又、地域のボランティア活動、自然環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

【現場見学会】

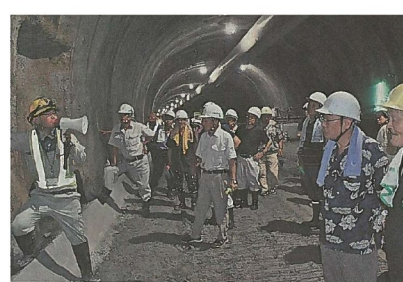
未来の建設業の担い手となる地元小学生や地域住民を招待し、工事の説明、重機等の試乗体験、トンネル掘削先端までの坑内見学などを通して建設業界の魅力を発信し関心を抱いてもらい、工事への理解をより深めて頂くよう現場見学会を開催しています。



・地元小学校現場見学会



・重機試乗体験



・地域住民坑内見学

【協賛マラソン大会、ロードレースへの参加】

地元地区の経済の活性化や地域の方々の交流を目的として水戸フルマラソン大会「水戸黄門漫遊マラソン」、「目白ロードレース」に協賛し、当社から社員多数がランナーと参加しています。



・水戸黄門漫遊マラソン参加者



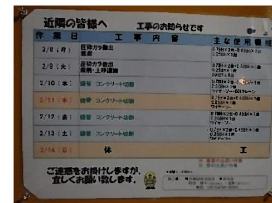
・目白ロードレース参加者

【現場環境の地域への調和】

工事を進めるに当たって完成予想図看板に進捗写真を掲示し地域住民に工事内容、進捗状況や1週間毎の工事内容を周知し工事への理解と協力をお願いしています。



・現場進捗掲示看板



・1週間の工事内容周知

【地域の環境保全活動】

各地域において地元行政機関が主催・後援する環境保全活動に参加しています。



・東京湾クリーンアップ大作戦



・国営巨椋池地区クリーン活動

【事業所個別のボランティア活動】

地域奉仕活動の一環として、茨城本店において水戸市桜川河川敷を定期的に清掃ボランティア活動を行っています。(年3回)

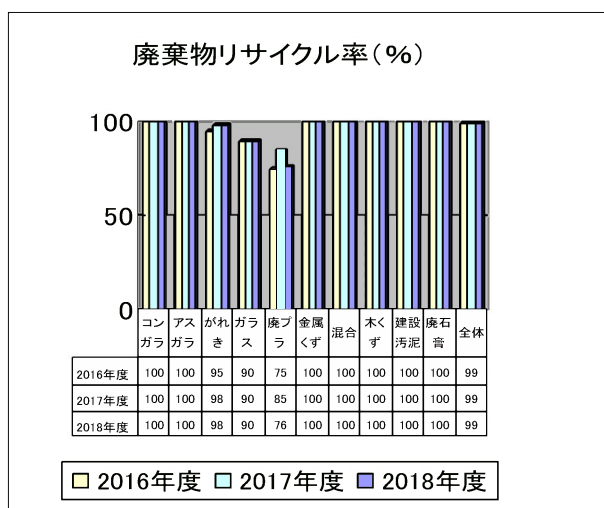
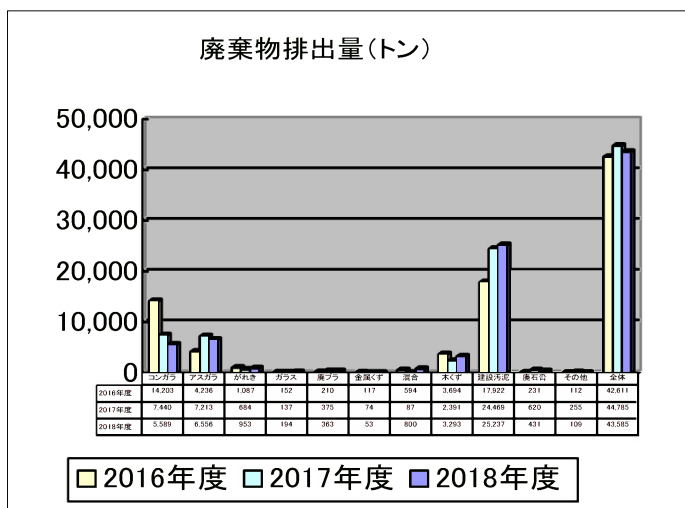
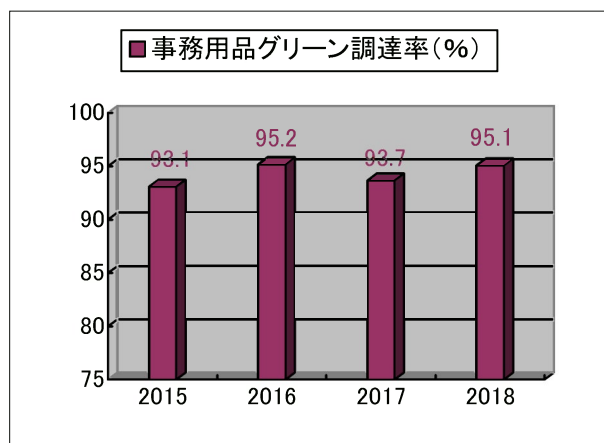
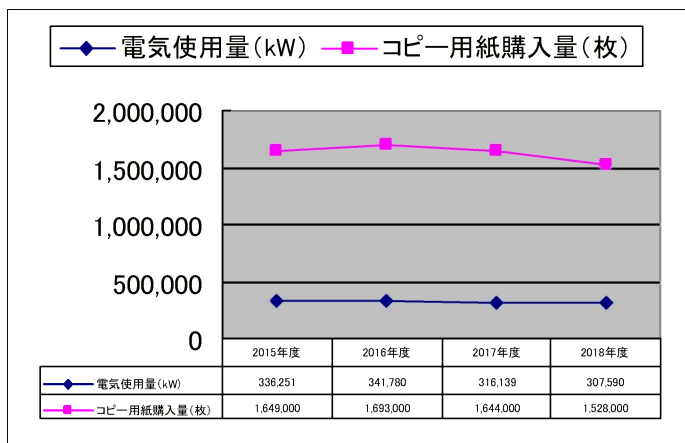
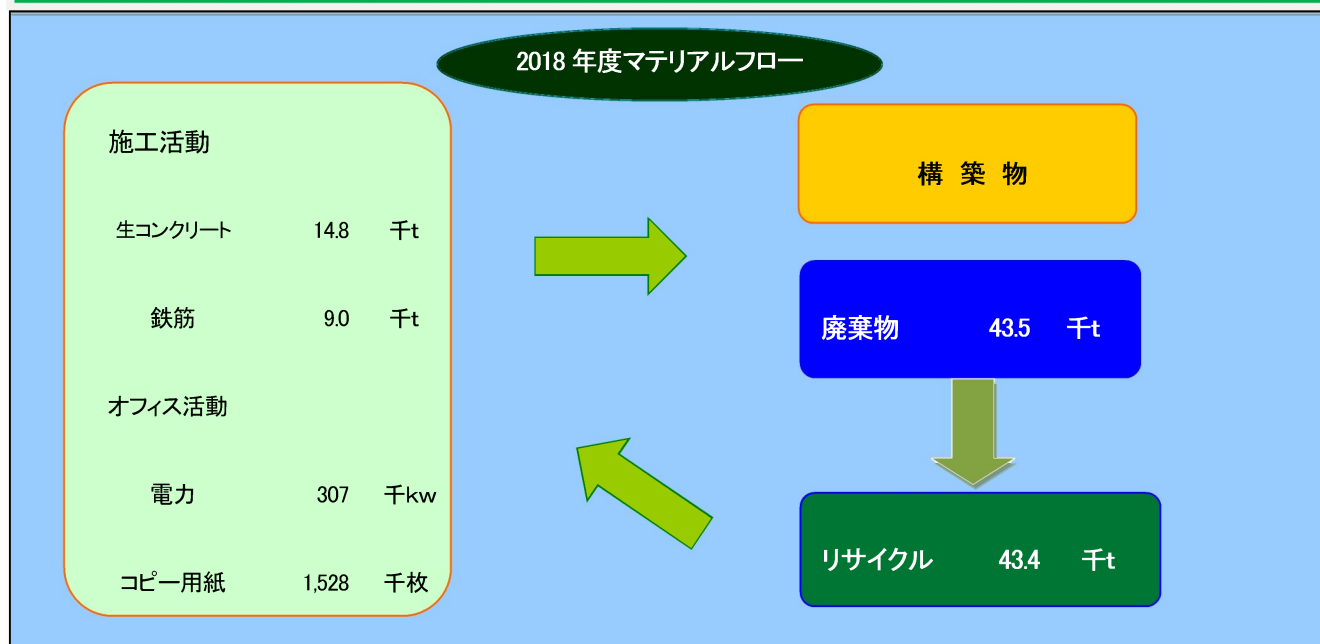


・第1回(4月実施)



・第2回(7月実施)

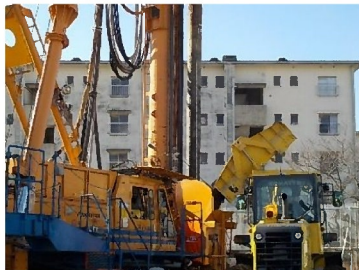
9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス



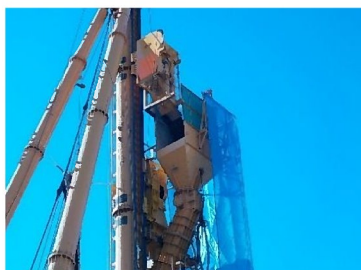
10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み

【資源の有効利用、低騒音・低振動による周辺環境に配慮した施工】

- ① 液状化対策の地盤改良工事では、低騒音・低振動で、材料に使用する砂や碎石をリサイクル製品で代用できる工法を採用し、再生資源の有効活用をしました。
- ② 泥濃推進の送泥時に生じる騒音を低減するために送泥管に騒音防止マットを取付け施工しました。



① 再生砕石積込状況



再生砕石投入状況

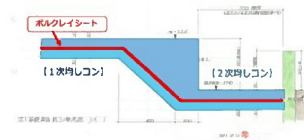


② 送泥管騒音防止マット取付け状況

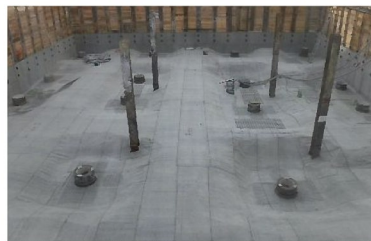
【水質汚染を防ぎ湧水対策に有効な施工】

根伐底からの湧水を薬液注入工法による防水対策では防ぎきれなかった工事では、天然鉱物のベントナイトを材料に使用している（水質汚染を起こす有害物質を一切溶出ししない）ボルクレイ防水工法を施主に提案し、承諾を頂き施工しました。

■ ボルクレイ防水工事



・ボルクレイ防水工事の特徴



・施工状況（根伐底）

■ 基礎工事における湧水対策



・施工状況（矢板面に貼り上げ）

【日本野鳥の会の活動をサポート】

当社は、長年にわたり法人特別会員として日本野鳥の会の活動をサポートしており、公益財団法人日本野鳥の会が発行した小冊子“ヒナとの関わり方がわかるハンドブック”に応援企業として当社名が掲載されています。



【地球温暖化防止活動】

施工に使用する発電機・建設用重機や運搬車両からの排気ガスを抑制するための啓蒙活動や、全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動に取り組んでいます。

◆実施事項◆

- ・「ストップ・ザ・CO2 横断幕」「絵で見る省燃費運転マニュアル」等を作業所へ配付しています。 発行：（一社）日本建設業連合会
- ・「アイドリングストップステッカー」を作成し、作業所へ配布を行い各重機、運搬車両へ貼付、掲示等を行っています。
- ・日建連が主唱するCO2削減活動に倣い、全作業所を対象に施工におけるCO2削減活動を環境目標に掲げ、展開しています。

【啓蒙活動】

「ストップ・ザ・CO2横断幕」「アイドリングストップステッカー」を配布し、重機・ダンプに貼付させ、CO2削減活動を積極的に推進しています。



・ストップ・ザ・CO2 横断幕



・当社作成 CO2 削減啓蒙ステッカー



12. KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動

◆当社においては、「工程・原価・品質・安全・環境」に関する不適合事例を改善すべく会社内で同じミスを2度と繰り返さないよう、また、**トラブルや問題を現場だけで抱え込まない**ように、マネジメントシステムの中にいくつかの仕掛けを取入れて実施しています。その中の主要な一つが『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』です。

◆KCS(カブキ・コンストラクションシステム)について

当社は、建設業では初めて「トヨタ生産方式(TPS)」による「改善活動」のキックオフを2008年に行い、モデル現場において試行錯誤を繰り返しながら、建設業に適応させた独自の『KCS(カブキ・コンストラクション・システム)』へ変換し、全社へ展開して**自社の独自性を発揮すべく**鋭意活動を展開しています。

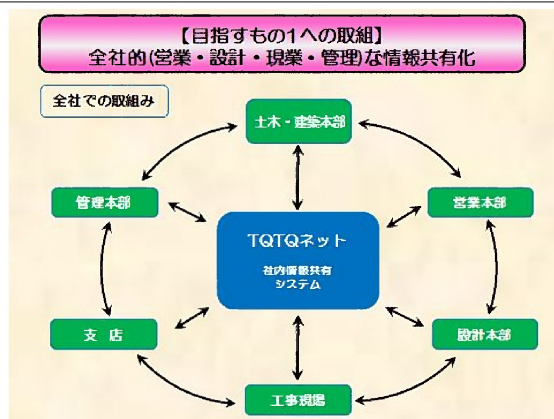
【当社が目指しているKCS改善活動】

目指すもの1

発注者からの必要な**情報**を営業・設計・土木・建築・管理・支店・工事現場が確実に**共有**すること。

目指すもの2

現場の所長・協力会社・作業員が誰であっても、「後工程はお客様」、つまり、**後の工程に不具合をまわさない**という「TPS」の思想を理解して、その結果、発注者に信頼を得られる優れた施工を**継続**すること。



【目指すもの2への取組】 工事現場での取組み(職員・協力会社の情報共有化)

1. 安全の見える化

- * 安全掲示板へ各社作業内容、重機配置、搬入車両を**見える化**
- * 場内の通路、材料搬送、各所注意事項の**見える化**
- * 第三者への各所注意事項の**見える化**
- * 視覚に訴え徹底した「色別化」による**見える化**

2. 品質の見える化

- * 現場における看板の掲示による作業内容個別の**見える化**
- * 実物・写真・サンプル・模型の掲示による間違い防止の**見える化**
- * 使用材料を色分けし誤使用防止の**見える化**

3. 工程の見える化

- * 全体工程の職員、協力会社への**見える化**
- * 工程における、アンドンの活用による進捗の**見える化**

【英国博士を招いての KCS 改善活動実践例現場見学会】

生産性向上と品質確保を追求するトヨタ生産方式(TPS)を建設工事に応用しようとする建設方式リーンコンストラクションの第一人者である英国アルガン・テゼル博士を招いて「KCS 改善活動」の現場見学会が行われました。



・英語版パワーポイントで説明



・実践「KCS 改善活動」の見学



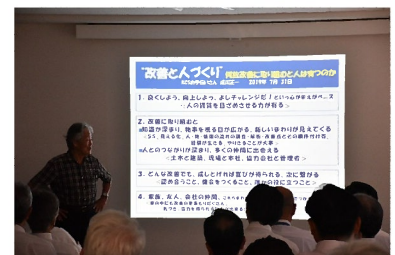
・実践「KCS 改善活動」の見学
(見える化創意工夫事例)

【社内全体で知識・技術の共有化】

KCS 改善活動を積極的に推進し、発注者の評価につなげた優秀な成績で竣工した土木・建築の作業所の活動事例を施工体験発表大会、フォロー会の開催やイントラネットに掲載し情報の共有化を図っています。



・施工体験発表大会



・フォロー会の開催

13. 環境報告書作成・発行

対象組織	株木建設株式会社
対象期間	2018 年度(一部 2019 年度活動含む)
主な加盟している業界団体	(一社)日本建設業連合会 (一社)日本埋立浚渫協会
作成部署	安全品質環境管理室
お問合せ先	東京本社 安全品質環境管理室 TEL:03-3984-4150 FAX:03-3984-6900 Mail:webmaster@kabuki.co.jp



<http://www.kabuki.co.jp/>



2020 年 4 月発行